

シリーズ1、病虫害等による庭木の被害とその対策（8）

－屋敷林におけるスギの健康度診断（1）－

富山県林業技術センター林業試験場
中山間地域資源課長 西村 正史

屋敷林は本県の代表的な景観の一つであり、緑の資源としても貴重な存在になっています。特に、スギは屋敷林内で中心的な地位を占めており、スギを守ることは屋敷林を守ることであります。衰弱の原因が地下部にある場合の被害の特徴と対策を紹介します。

1. 踏圧害

1-1.被害の特徴

スギの根元付近が、人や車等で長年踏み固められると土壌は次第に堅くなっていきます。その結果、空気や水の通りが悪くなり、根が枯死します。地上部では、葉が減少し、枝枯れが目立つようになります（写真）。衰弱がさらに進行すると、スギは枯損する危険が高まります。

1-2.対策

スギの樹冠付近（根が張っている範囲）を少なくとも30cmの深さまで耕耘し、堆肥を入れてよく混和することが大切です。その際、根元は避けてください。堆肥の量は100㎡当たり1.0～1.5kgを目安にしてください。

なお、加湿障害を伴う場合もあります。その時は、暗渠排水にし、水が停留しないようにすることが大切です。

2. 根の切断害

2-1.被害の特徴

屋敷林内で家の立て替えや庭の工事の際に太い根等を傷めると、スギが衰弱します。傷口から腐朽菌が侵入すれば根が腐朽し、衰弱傾向はさらに加速されます。被害が進行すれば、枯損あるいは倒木する場合があります。

2-2.対策

屋敷林内のスギの近くで工事を行う場合は、根を痛めないように気をつけてください。重機等が入ると土壌を堅くする場合がありますので、注意してください。

3. 盛土による被害

3-1.被害の特徴

屋敷林内は、盛土されたスギがよく見られます。このような場合、数年経過するとスギが衰弱し始め、踏圧害と同じ症状になって行きます。

3-2. 対策

スギ等への盛土は避けることが大切です。盛土を行った場合には取り除きましょう。

また、屋敷林内で家の立替えや庭の工事等で新たな土が搬入されることがあります。その際、スギ等の植物の生育に適さない土壌の搬入は避けるようにしてください。その際、スギへの盛土はしないでください。

盛土のためスギが衰弱しておれば、盛土を除いて、1の踏圧害の対策を行ってください。



写真 踏圧害によって衰弱したスギ